

短命県返上へ決意新た

弘大COI 市長に最高賞報告

弘前

短命県返上や世界に通用する健康増進モデルの構築を目指す取り組みで「第1回日本オープンイノベーション大賞」(内閣府など主催)の最高賞・内閣総理大臣賞に選ばれた「弘前大学COI」の関係者が14日、

記念写真に納まる(左から)中路特任教授、若林副学長、桜田市長、村下教授



弘前市役所を訪れ、桜田宏市長に産学官民挙げての実績が認められた喜びを報告した。

弘大COIは、弘前市岩木地区で2005年から行っている大規模健診で得たビッグデータを活用し、認知症や生活習慣病の予測モデル開発などに取り組んで

いる。

この日は、弘大の若林孝一副学長・医学研究科長、弘大COI拠点長の中路重之特任教授、副拠点長の村下公一教授が訪問。中路特任教授は「COI参画企業が地元と結びつき、その中で新たなイノベーションも

起こると期待している。これからも市民や行政とともに短命県返上に励み、地方創生につなげたい」と語った。

同大賞は、組織の壁を超えて技術革新に挑戦する「オープンイノベーション」の模範的な取り組みをたた

えるために創設。全国212件の応募の中から14件が受賞した。弘大COIは、健康に対する県民の価値観の変化にも貢献していると評価された。

一行は同日、県庁も訪れ、三村申吾知事に受賞を報告した。(大田佳希)